

学校教育講座 板橋 孝幸 教授



学校と社会をつなぐ郷土学習の研究



キーワード 郷土教育/ 総合学習/ 教育史/ へき地教育/

どのような研究をなぜ行っているか

日本で初めて郷土教育が全国的に展開された昭和戦前期から現代の地域学習に至るこれまでの教育実践の歩みを踏まえて、これからの総合学習やESDのあり方を研究しています。郷土教育は地域のさまざまな事象を扱うため、教科・領域横断の学習であり総合学習といえます。子どもたちによりよく生きる力を育てるには、まずリアルな目の前の地域事象を対象に、社会の仕組みを理解することが有効と考えて研究を進めています。

学生たちとの教育・研究活動においても歴史的理論的研究と教育実践の往還を考えるため、卒業論文や地域学習レポート等をまとめて『奈良教育史研究』と『地域学習研究』の2種類の研究室紀要を毎年発行し、上記のような研究を深めています。



毎年発行している2種類の研究室紀要

研究成果をどのように活用し、どのような貢献ができるか

1. 地域学習・総合学習の授業づくりや社会科副読本作成の支援

戦前の郷土読本はもとより、大学での担当科目を通して学生の出身地で現在使用されている地域学習副読本を入手して、その分析や授業づくりを行ってきました。そうした研究蓄積から、地域学習づくりや社会科副読本作成の支援が可能です。

2. 学校資料の保存や活用

歴史を今に伝える貴重な資料を残している学校は多々あり、そうした資料は学校史、学校統廃合記念誌、自治体史などの編纂には欠かせません。これまでの研究活動で培った蓄積を活かし、学校資料の保存・活用、校史などの編纂に貢献できます。

3. へき地教育・地域創生への貢献

よりよい郷土教育を実施するには地域の理解と協力が不可欠であり、へき地校はそうした関係性を築いて地域創生を進めているところが多く、各地で豊かな実践が行われています。そのような実践校の工夫や課題について調査研究した成果を提供し、へき地教育・地域創生の取り組み支援ができます。

これまでの連携研究や社会貢献活動の実績

- 本学と県教委の連携協力の1つとして行っているへき地教育部会の一員として、複式学級・小規模学級担任等研修会を開催して、へき地教育に関する研究成果の還元はもちろんのこと、学生とともに学校間連携による地域学習の取り組みをしています。
- 本学実習園での伝統野菜や果実の栽培・加工・調理を用いた地域・食文化学習の教材づくりを深めて、社会人向け公開講座の内容を学生とともに作り、社会貢献活動を行っています。
- 本学附属小に残る明治期からの資料を活用できるように、目録作成や保存活動をしています。戦前陸軍の駐屯地であった本学キャンパスの特性を活かし、戦跡の保存や平和学習づくりを進めています。

詳しくは、本学広報誌『ならやま』2020秋号や本学HPの「なっきょんナレッジ」を参照ください。

- なっきょんナレッジ https://www.nara-edu.ac.jp/nakkyon_knowledge/blog/2021/11/post_26.html
- 『ならやま』2020秋号 <https://www.nara-edu.ac.jp/PUBLIC/NARAYAMA/ebook30/>

